

審議会等会議録

| | |
|------------|---|
| 審議会等の名称 | 令和4年度第1回山口市立図書館協議会 |
| 開催日時 | 令和4年5月19日（木曜日）14:00～15:46 |
| 開催場所 | 山口情報芸術センター 2階 多目的室 |
| 公開・部分公開の区分 | 公開 |
| 出席者 | 安光会長、伊東副会長、中村委員、大野委員、田邊委員、坂田委員、原田委員、山本委員、國弘委員、山口委員、小嶋委員 |
| 欠席者 | 木村委員 |
| 事務局 | 松富中央図書館長、杉山小郡図書館長、小野秋穂図書館長、飯田阿知須図書館長、河野徳地図書館長、楳本阿東図書館長、村中中央図書館副館長、尾崎中央図書館管理担当主幹、水師中央図書館サービス担当主幹 |
| 議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度山口市立図書館運営状況報告 2 各館の令和3年度事業実績及び令和4年度事業予定 3 第四次山口市立図書館サービス計画策定に係る市民アンケート調査の結果について 4 こどもワイワイ図書館 実績報告 5 その他 |
| 内容 | <p>○中央図書館 村中副館長</p> <p>最初にお断りをさせていただきます。市役所で夏の軽装に取り組んでおりますため、ノーネクタイ・ノー上着で、対応させていただく職員もおりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは改めまして、本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます中央図書館副館長の村中でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、これからは、座って進めさせていただきます。</p> <p>まず、委員の交代がございましたので、お知らせします。本日、お配りをしている資料の次第をめくった1ページ目の委員名簿の下の方にあります市教研学校図書館部会の木村先生と小嶋先生が、年度替わりの異動により新たにご就任いただいております。</p> <p>お二人とも、市教研の図書館部会の役には、つい最近ご就任されましたところから、急遽この会議のご案内を差し上げましたものですから、木村委員はご都合が合わずご欠席となりまして、小嶋委員は、ご多用の中、ご都合をお付けくださいまして、ご参加いただいたところでございます。</p> <p>それでは、早速で恐縮ですが、小嶋先生、一言ご挨拶をお願いいたします。</p> <p>○小嶋委員（市教研学校図書館部会）</p> <p>失礼します。中学校図書館部会の理事長をしております小嶋ともこと申します。</p> |

阿知須中学校に所属しています。どうぞよろしくお願いいたします。

○中央図書館 村中副館長

ありがとうございます。

それでは、つづけさせていただきまして、会議の成立について報告させていただきます。先程も申しましたように、本日、木村委員がご欠席ですが、委員の過半数の出席がごございますので、山口市立図書館条例施行規則第24条により、会議は成立いたしております。

また、令和4年度となって事務局職員の異動がございましたので、改めて職員を紹介をさせていただきます。

中央図書館 松富館長。小郡図書館 杉山館長。秋穂図書館 小野館長。阿知須図書館 飯田館長。徳地図書館 河野館長。阿東図書館 楳本館長。中央図書館 尾崎管理担当主幹。中央図書館 水師サービス担当主幹でございます。

よろしくお願いいたします。

なお、今年度は第四次山口市立図書館サービス計画を策定いたしますことから、会議の開催回数が例年より多くなりますので、ご理解とご協力を承りご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

つづきまして、本日の資料についてお知らせいたします。

事前にお送りをさせていただきましたが、変更しておりますので、机の上に置いたものと円グラフ等で色付きのもの、それと「令和3年度第3回山口市立図書館協議会の議事録」の案を本日、皆様の机の上に置いております。

また、アンケートの結果については、先にお送りさせていただいたカラーでの今回だけのアンケート結果を資料にいたしますので、ご留意ください。

なお、第3回協議会の議事録については、図書館ホームページに掲載いたしますので、委員の皆様にご確認いただき、修正が必要な箇所がございましたら、6月2日木曜日ぐらいまでに連絡をいただきますようお願いいたします。

また、本日の会議も議事録を作成することから録音いたしますので、委員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

加えて、前回、会長の方からお伝えしていただいたように、ご発言の際には、冒頭にお名前をお名乗りいただきますと、議事録が非常に作りやすくて、大変助かりましたので、お手間をおかけいたしますが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、会議終了後に、大野委員が撮影されましたワイワイ図書館のDVDを上映いたします。上映時間は、約30分です。

それでは、山口市立図書館条例施行規則第24条により会長が議長となりますことから、これからの議事進行を会長にお願いいたします。

安光会長よろしくお願いいたします。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

山口県立大学の安光裕子と、それが身につけていますけど、実は3月末をもって

退職して、今は自由の身ではありますが、今日も、バタバタしております。

皆様方も大変お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は議題をみますと、4つの項目に分かれているということですが、皆様方の忌憚のないご意見等、頂戴しながらスムーズに進行できたらと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。それでは座って進行いたします。

合わせて、山口市立中央図書館友の会の「トネリコ」代表でもありますので一応それをご紹介します。

それでは、今申し上げたように今日は4つありまして、それを簡潔にスムーズに進めさせてもらいまして、大野先生のワイワイ図書館のDVDにということ考えております。

一つ目は令和3年度山口市立図書館運営状況報告です。それでは、これについて事務局からご説明をお願いいたします。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

みなさんこんにちは、去年より引き続き事務局を務めます尾崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですがお手元の資料の3ページをお開けください。それでは着座にてご説明をいたします。

最初に、7ページにA3の折りたたみのめくりがありまして、そちらに、今からご説明をする3ページから6ページの内容とリンクいたしますので、ご覧ください。また事前にご送付した資料と中身は一緒です。

それでは、3ページの方に戻ってご説明、ご報告をいたします。

まず1番目、令和3年度の概況についてです。令和3年度については「第三次山口市立図書館サービス計画」の4年目を迎えたということで、合わせて子ども読書活動推進計画も4年目、後ほど皆様方にご審議をしていただく図書館サービス計画の今年度は最終年度にあたるということですので、昨年度は4年目の事業を進めたということです。

3番目ですが、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を行うために臨時休館を実施いたしました。

全ての館で実施しましたが、8月26日～9月26日と1カ月間に渡り臨時休館を実施いたしました。

また、合わせて臨時窓口の開設もいたしました。こちらも全館で実施をしましたが、昨年度とは違って休館とほぼ同時に、臨時窓口は開設をするという手法をとりました。こちらも9月26日まで行いました。

また、保育園配送の拡充を行ったり、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として図書消毒機の導入を行ったりしました。

それから、館別の概況についてですが、こちらは後ほど、各図書館長から皆様方にご報告をいたしますので割愛したいと思います。

めくっていただきまして、4ページをご覧ください。事務事業別の概況です。図

書館の事業については、例年通り7事業ほど令和3年度は行いました。

その前の年、令和2年度に比べてコロナ禍において対策を講じながら事業を進めていくという、これは市の方針でもあります、この方針のもとで、各所事業に積極的に取り組みを行ったという状況であります。

まずは、1の図書館管理運営業務についてです。図書館管理運営業務については図書館協議会、皆様方にお集まりいただいて、3回の開催いたしました。

それから、③をご覧ください。まちじゅう図書館については、例年どおり一生懸命に、昨年度も取り組みを進め、現在は、15事業者がパートナー事業者となっております、そのサテライトライブラリー、実際に店舗で本を読む事業の状況は、2か月に一度、50から60冊の本を配本し、昨年度のアンケートでは、15店舗で、月に1,000人ぐらいの利用をいただいているというようなアンケート結果がでています。

また、パートナー事業者の皆さんによる図書館で講座の開催についても、昨年度は、少しコロナの影響で少なくなったのですが、8講座8事業を開催しました。

それから、2番目の移動図書館管理運営業務についてです。こちらも北部については阿東図書館、中央・南部については中央図書館を発着場所として、2台運行体制を継続して行っており、一時、臨時休館中については運休した時期もありましたが、利用者も貸出数も増加をしているというような数値の結果がでています。

それからちょっと飛んで、4ページの一冊下の所の4の学校図書館支援サービス事業についてです。ここでは、先ほど申しましたように保育園の配送の拡充を行っております。

次に、5ページに入りまして、ページの上の所、③番目で、図書館実習とか職場体験については受け入れが可能などころに限定をして、昨年は受け入れを実施いたしました。

特に、図書館実習については、山口県立大学の生徒、それから山口大学の生徒を簡易実習ということで2回5名ほどお受けいたしました。その他、先生方の職場体験・職場実習や中学生の職場体験も数名を受け入れて3回のべ8人の方を受け入れました。

それから、6番目の子ども読書活動推進事業についてです。②をご覧ください。昨年度は、児童サービスボランティアの養成講座の開催を中央図書館でいたしました。10月3日と11日に行い、参加者は合計13名でした。その後、児童ボランティアグループ「パレットの会」を設立していただいて、現在は毎月、本の読み聞かせをしたり、資料の補修作業を行ったり、また、イベントにも積極的に参画をするなど、活発に活動をしているという実績が上がっています。

それから、最後に、5ページの下の方の7番目の図書館活用推進事業では、様々な事業の行事を各図書館で行っていて、そちらの主だったものについて書き込みをしていますので、またご覧ください。

以上、早口で簡単でしたが、運営状況のご報告です。

つづきまして、9ページをご覧ください。9ページの令和3年度の図書館の各種指標についてです。こちらをご覧くださいながら、お話をさせていただきます。

令和3年度については、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館を行ったということもあり、貸出件数や入館者数は、わずかな増に留まるという形でした。令和2年度と令和3年度はほぼ同じくらい、ひと月ずつくらい休館をしているということもあり、令和3年度の方がわずかに増えましたが、わずかな増に留まったという実績です。

まず、1番目の貸出点数をご覧くださいなのですが、目標は175万点を貸し出したとしておりますが、令和3年度の実績が、127万8千29点、前年度比では4万5千320点の増となりました。

また、2番目の入館者数については、74万人を今目標数値としていますが、令和3年度の実績は、54万3千302人、前年度比が、3万3639人の増という形となりました。

それから3番目の増総冊数です。こちらは、70万冊を目標として計画的な資料整備を進めていて、平成29年度の時点で達成をしております、毎年のごとくですが、資料の鮮度を保つことに努めて、除籍の方も計画的に行っております。

それから4番目の市民一人当たりの貸出点数です。こちらについては、日本一本を読むまちを目指しているところがございますが、貸出点数を10件とする目標を掲げておりますが、昨年度実績は9.0冊ということで2.6冊の増という形になりました。

下の方にさがっていただきまして、学校図書館の1人当たりの貸出冊数をご覧ください。表の中の下から4番目、こちらの38冊を目標としておりますが令和2年度については達成していたところですが、令和3年度実績が38.0冊これ目標の数字ではありますが減になります。前年度から8.2冊の減となりまして、こちらのマイナスが目立つかなと思っております。学校教育の方、学校図書館の方との絡みもありますので、また分析を進めていく必要があるのかなということを考えています。

こちらも、非常に早口でしたが、令和3年度の報告といたします。以上です。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、どうもありがとうございます。

全体的な議題の1ですが、山口市立図書館運営状況全般についてお話いただきました。議題2はですね今度は各館に引き継ぎますので今、ご質問いただくのは全体に対してのご質問いただければと思います。

今、ご報告いただきました。後ほど、また、各館から詳細を、報告してもらおうということで、いいでしょうか。

1人当たりの貸出点数10というところが、なかなか厳しいですが、9までいっているという限りなく10というのなかなか難しいのかなと思って、今、お話を聞いていた次第です。

それでは次の議題の2番ですけれども各館の令和3年度、事業実績及び令和4年度事業予定ということでお願いいたします。

会議の時間にも都合があるので、各図書館の館長さんは、特徴的なところをまとめて簡潔にお話ください。

それでは、まずは、中央図書館からお願いいたします。

○中央図書館 松富館長

はい、中央図書館の松富です。よろしくお願いいたします。

それでは、令和3年度の主な取り組み、10ページを開いてください。その1番上が中央図書館の取り組みです。

①とかは普通に、通常業務として行っています。特徴的な業務は、②保育園への配送サービスの充実、昨年まで17園で実施していたものを全部の37園に拡充をしています。

それから、③の新型コロナ対策での図書消毒機の購入です。

中央図書館が2台、その他の館が各1台、計7台の図書消毒機を導入しています。

令和3年度は以上です。つづいて、令和4年度の主な取り組みです。

①、②に加えまして、③では、点字用パソコンプリンターの購入を予定しています。これは、サピエという目の不自由な方とか、文字の読みにくい方の補助するサポートするという仕組みがありますが、そこに年間お金4万円ほど会費払っていますが、この活用を今うまくできていないので、これはアピールしてサピエを充分活用できるような取り組みを行っていきたいと思っております。

それから④の計画でございます。先ほども出ていますように第四次図書館サービス計画と子ども読書活動的計画の策定を予定しています。このなかで、あと水師の方から説明があると思いますが、一応「電子図書館サービス」の導入、それからデジタル技術の活用による利便性の向上に取り組むことなどをこの計画の中に盛り込んでいきたいなというふうに思っています。

計画の内容につきましてはまた皆様方にお示ししてご意見を伺いたいと思っております。以上で中央図書館を終わります。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ありがとうございました。それでは小郡図書館お願いいたします。

○小郡図書館 杉山館長

小郡図書館杉山でございます。よろしくお願いいたします。

令和3年度の事業実績についても新型コロナの感染拡大防止対策をしながら運営等をおこなっています。

まず、10ページの方で説明したいと思います。

①の利用者層の拡大にしても、図書館友の会「鉢の子」と連携しながら、7ページに記載の一覧表にあるように多くの事業をやっています。

科学講座、ワイワイカフェ、文学講座、戦争と平和のはなし会、ものづくり教

室、ビブリオバトル、ふるさと講座など多くのイベントを開催しています。

そして、これは余談になりますが、ここには載っていませんが昨年度、産業交流拠点施設の主催として小郡出身の日本の食品冷凍の基礎を築いたとされる葛原猪平さんに関する講演等を開催しています。

私は3月まで、小郡総合支所長をやっていたので小郡の偉人の掘り起こしとかのそういったことも「鉢の子」さんにやってもらっていることを報告いたします。

つづきまして、②子ども読書活動の推進では、定例のおはなし会を開催しております。

③他機関、文化資料館などとの連携強化ということでは、リストの配布や企画展示などに加えまして、産業交流スペース「Megriba(メグリバ)」にビジネス経営に特化した利用案内を作成し、図書館カレンダーとともに配布しています。

さらに、7ページの事業一覧表に載っていますが、昨年度は、小郡地域交流センターとの連携をやっておりまして、子ども読書活動推進事業で子ども向け上映会を2回、大人向けの上映会を2回、室内楽演奏会を1回開催しております。

つづきまして、資料整備では地域資料のさらなる整備、積極的な閉架書庫への棚移動へ努めました。

最後、5番目の施設整備としては雨漏りですが、2階団体室を中心とした雨漏りの修繕を行っております。以上が、令和3年度の事業実績です。

つづきまして令和4年度の主な取り組みについてですが、これも10ページの右側の列にありますが、利用者層の拡大については、引き続き図書館友の会の「鉢の子」と連携しながらイベントを実施していきます。

今年は、山口線100周年ということで、新山口～津和野間100周年ということで、全線開通は来年度2023年度ということですが、今、こういった山口線100周年の関連イベントを鉢の子さんと準備しております。

また、今年3月に開始した「Megriba(メグリバ)」のブックポスト、予約配送についてももっと周知を重ねていきたいと考えています。

子ども読書活動推進についても、定例おはなし会を開催しております。

他機関との連携についても、昨年度と同じように地域交流センターと連携して行事を行っていききたいと考えております。

また、資料整備については地域資料のさらなる整備と閉架書庫内の配置と見直しをやっていきたいと、棚の増設をお願いしていますが、それまでの間は工夫していきたいと考えています。以上でございます。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）（山口県立大学名誉教授）

ありがとうございました。それでは秋穂図書館お願いいたします。

○秋穂図書館 小野館長

はい、秋穂図書館の小野でございます。

まずは、10ページの左の欄が、令和3年度の取り組みですが、未だ続いている

コロナ禍ということで、今時の図書館業務の在り方、設備の在り方、代表的なのはディスタンスの取り方、運営の仕方について再構築を行ってきました。

次に、読書環境づくりということで、利用者と図書館職員とのコミュニティそれから利用者間、関係団体さんとのコミュニティを充実させていきまして、居心地の良い図書館になるように努力しております。

次に、館内機能の充実ですが、これは、①のところも繋がっていますが、開架書架の資料増数、それから、ギャラリーでの展示、掲示機能の効率化を図って館内のレイアウトを工夫してきました。

レイアウトを再考察するといっても大きな建物の塊ですので、大きく変わりませんが、本来、ギャラリーではないところをギャラリー化して展示物は平置き展示しております。そういう企画的なこともやっていました。

次に、子ども読書活動推進ですが、これは、常々、秋穂図書館においては、力を入れていて、おはなし会、上映会、読み聞かせ事業を、コロナ禍でしたが、小規模の取り組みに入れております。

一般向けの読書活動の推進ですが、これも大人向けのおはなし会を一時休演していたものを再開しました。

最後に、秋穂地域資料の充実ですが、小林和作画伯の関係資料があり、地域の歴史の資料充実を図るということで、地域の方々に呼びかけをして、本物は無理ですが、小林画伯の作品のレプリカを秋穂図書館の正面入り口の所にお借りをして飾らせていただいております。令和3年度の取り組みについては以上です。

つづきまして、令和4年度の取り組みということですが、引き続きコロナの関係も、まだまだ続いております。

これも、先ほど申し上げた形で実状に応じた図書館業務、必要設備のあり方について、引き続き検証していきたいと思っております。

読書環境づくりについては、季節の風景とかその時その時の社会情勢に応じた企画・展示に力をいれて、合わせて利用者関係団体とのコミュニティを充実させていき、さらに居心地の良い図書館にしていきたいと考えています。

常設での企画展示でございます。これは、市としてあるいは教育委員会としての教育・福祉・人権等の行政ならではの基本の施策であると思っております。

これに関しては、例えば、人権週間がありますが、週間ではなくて365日常設展示できないかということで、関係課との調整をさせていただいて365日もしくは、あるいは関連図書について企画展示という形で常設の企画展示という形で充実をさせていきたいと思っております。

先ほども申し上げましたが、館内のスペースをとにかく使っていきたいなというふうに思っております。

次の子ども読書活動推進ですが、昨年度同様にコロナが続く中ではございますけれども、油断せずに小規模ではありますが、実施回数を可能な限り増やしながら、進めていきたいと思っております。

次に、一般向け読書活動の推進ですが、昨年度、再開した大人向けのおはなし会の回数を定例化させたいと思います。

最後に、秋穂地域資料の充実ということですが、小林和作の関係資料をはじめ地域の歴史の資料充実を引き続き進めていきたいと思っています。これらについても館内のスペースをうまく利用する形で、隙間、隙間での展示というのもミニマムなものになろうかと思いますが、考えていこうかなというふうに思っております。以上です。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、ありがとうございます。

つづいては、阿知須図書館お願いいたします。

○阿知須図書館 飯田館長

はい、阿知須図書館の飯田でございます。よろしくお願いいたします。

同じく10ページの令和3年度の主な取り組みについて説明をいたしますが、令和3年度については簡潔に説明をいたします。

大きく3つありまして、利用しやすい環境づくり、それから新たな利用者の拡大促進、それから学校等との連携強化という中で、7ページにあるような諸所の事業を実施しました。

同様に、コロナ禍の影響をうけたという中で進めた環境で、縮小せざるをえなかった部分等いろいろございました。

ブックスタートについては、ブックスタート体験会として4月～3月に実施いたしました。

それから、子ども読書活動、読み聞かせボランティア、おはなしキラキラというおはなし会というのが、11月3日のきらら館まつりを含めて、計7回100人の子どもが参加をされました。

それから、7ページですが、学校図書館支援事業について、令和3年度については、教員生徒の受け入れは、コロナ禍によって中止ということで、学校連絡会議、これも行っていますが、これも書類送付のみということになります。

また、行事についても、例年どおり、きらら館まつり等を行いました。316人出席参加ということでした。

それから、6～7月にかけて七夕かざり等を行っております。

それから、11月には、おすすめ本を教えてくださいという企画の実施をして、32人の参加があったという状況です。

これは、阿知須ならではの行事になりますが、ボランティアによる朗読サービスというのを原則として毎月第2火曜日、視覚障害者の方に対して一人当たり1時間程度、10回実施している状況です。

冒頭申し上げたとおり、令和3年度についてもコロナ禍の影響で、総じて、制限の多い状況での開催実施となりましたが、以上でございます。

次に、10ページの阿知須図書館の令和4年度の主な取り組み予定ということで

ございます。

1つ目の利用しやすい環境づくり、地域の皆さんに親しまれる図書館として、これまで手触り感のある接客を心がけていますが、引き続き地域図書館であることの強みを生かして、いつも利用している方々が、サードプレイス、いわゆる心のままに時間を過ごせる場所として、より快適に過ごしてもらえるような空間・空気づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。

それから、資料展示コーナーを参考書コーナーや児童図書コーナーに接する形で設置していますが、今年度も毎月利用者に興味をもってもらえるテーマを取り上げまして、展示してまいります。

それから、旧阿知須町時代からの蔵書もかなり傷んだものが、たくさんあります。

そうしたことから、昨年度に引き続きまして、劣化の激しい蔵書については単なる除籍ではなく1冊ごとに内容を定査した上で新品と交換するなどして、魅力的な書庫の維持を目指していきたいと考えています。

それから、新たな利用者の拡大促進では、隣接地域からの来館者を増やすため、佐山地域交流センターへ図書館だよりを配置したり、宇部市からの利用者、東岐波方面から一般客が入られると思いますので、利用者にも配布したりして利用促進に努めていきたいと考えています。

それから、行事については、11月のきらら館まつりを中心に手づくりの参加型の企画というのを計画していて、市民が来館するきっかけづくりになればと考えております。

阿知須図書館については、入口に展示ロビーがあり、絵画とか写真などの展示を行っていますが、これが案外幅広い層の来館に繋がっていることから、今後も積極的に活用していきたいと考えています。

それから、最後になりますが、学校との連携強化につきましてはコロナ禍の状況に注意しながら、引き続き阿知須地域の小中学校との連絡会議の実施をして、子どもたちに図書館を利用してもらえるよう状況を聞くなどして、連携を強化して参りたいと考えています。

また、図書館に隣接する阿知須保育園の年長さんに利用カードを作成してもらい来館してもらえるような取り組みを進めていければと思っております。

阿知須図書館からは、以上でございます。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ありがとうございました。

それでは、徳地図書館、徳地図書館は、この度4月から初めての館長さんで前の館長さんは阿東に替わるということで、榎本館長には後からお願いします。

○徳地図書館 河野館長

今ご案内がありました、徳地図書館の河野でございます。4月から徳地図書館に参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

事業実績でございますけれども、資料の10ページにより、簡単に報告して参りたいと思います。

図書館まつりですが、例年11月最初の日曜日に徳地フェスティバルが開催しております。

これと同時開催をしまして、通年であれば来館者数1500人を超える多くの方で賑わうという状況ですけど、この徳地フェスティバルが令和2年度に引き続きましてコロナの影響から中止となったため、147名の来館者数となりました。

次に、子どもの読書活動の推進を図るため、主として小学生を対象に図書館での映画上映会や、しおり釣り、ゲームを行いました。

ワイワイ図書館の実施、一定の期間で30冊の本を借りた児童に景品をプレゼントする取り組み、図書館の仕事内容等を小学5、6年生に学んでもらう「図書館たんけん隊」等を開催しました。

次に、図書館利用促進のため、地域の方々のご協力によりまして、10月にストーリーテリングの集い、そして、11月に幕末維新関連の歴史講座を開催して熱心にご聴講をいただきました。主な事業としては以上でございます。

つづきまして、令和4年度の主な取り組みですが、徳地では、今年度の秋ごろに徳地図書館の横に徳地総合支所が開所の予定です。

また、来年の1月22日にはコロナの感染拡大によって開催が延期されております東大寺サミットが今のところ開催される予定となります。

こういったことから、図書館への入館者の増加が見込まれて、中には初めて来館される方もいることが予想されて、利用増進を図る良い機会ではないかなと思っております。

徳地幕末維新歴史放談の会（現：徳地史談会）や徳地文化協会等の方と連携をして、徳地幕末維新関連や重源上人関連の歴史講座を開催して、利用促進を図っていくとともに、東大寺サミットの開催に合わせて図書館において、重源上人関連の書籍のコーナーを設置することを検討しております。

その他の取り組みとしては、令和3年度の主な取り組みを踏襲し、実施する予定としております。以上でございます。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ありがとうございます。

東大寺サミットが開催されるという資料ですね。それでは阿東図書館よろしくお願ひします。

○阿東図書館 榎本館長

それでは、昨年まで徳地の方において、令和4年度から阿東図書館の方に代わりました榎本でございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

まず、令和3年度の事業実績について申し上げます。

メインの行事である図書館まつりについては、昨年8月1日に開催し、ワードラリーやDVD上映会の他、ビンゴ大会を開催して参加者に雑誌等の付録などを景品

として差し上げました。まつりの終了時には、館内に飾り付けていた、バルーンや職員が作成した切り絵などをプレゼントして大変喜ばれました。来館者数は、延べ645名でした。

次に、4月に開催した子どもワイワイ図書館についてはDVD上映会を視聴いただいた犬をテーマにワードラリーを行うとともにボランティアで読み聞かせをしている地域の方々に協力をいただいております。参加者は120名でした。

次に、阿東図書館では北部地域の移動図書館を運行いたしておりますけれども、この「ぶっくん」を使った「ぶっくん」カフェを昨年10月と3月の2回、図書館の中庭に「ぶっくん」を停めて、その周りに机と椅子を準備して、大空の下ゆったりとした気分で読書を楽しんでいただいております。約40名の方にご利用いただいております。

また、子ども向け大人向け計8回に渡ってDVD上映会を開催し、図書館へまず足を運んでいただく機会を設けることで、それと毎月の特別企画として大掛かりな飾り付けや本の平置きを行って、来館者の目を引くような仕組みに努めました。

その他、小学生の施設見学として徳佐小の子どもたちに地域のまち探検と称して図書館の利用案内や中学生に職場体験をしていただきました。事業実績については以上です。

次に、新年度、令和4年度の取り組みについてです。

まず、一番上の図書館利用の促進についてですが、今年度の季節ごとの特別企画として、段ボール等を使った大型展示物を作成したり、本の平置きスペースを拡大したりして、来館者のより興味をひく展示を企画しています。

また、引き続き春秋の気候が良い時期に「ぶっくん」カフェの開設をして図書館の中庭で読書を楽しむなど、リラックスしたひと時を過ごしていただく予定としています。

その他、資料には載ってはおりませんが、大野委員が作成されたDVDの上映会の開催や、先ほど小郡図書館の方でも申されましたけど、今年は新山口駅から津和野駅までの山口線開業100周年の節目の年であることを記念して、小郡図書館と連携して、写真展やスタンプラリーなどの開催を企画しております。

次に、2番目の子どもの読書活動の推進についてです。今年度も、子ども向けのDVD上映会や工作教室を開催して、子どもたちに図書館で楽しんでもらう機会を設けたり、ばあちゃんの健康相談日の日程に合わせて、ブックスタート内見会を行ったりする予定です。

また、今年も徳佐小学校1～2年生に来館いただいて図書館での楽しみ方を体験してもらおうと考えております。

次に、3番目の各分館配送サービス及び移動図書館の周知についてですが、これまで利用のなかった分館で、今年度当初から新規に継続的な利用者が出たりはしておりますが、まだまだ利用者が少ないということで、今年度に引き続き、これらの

サービス内容の周知を行いまして利用者の一層の拡大に努めたいと考えております。

最後に4番目、移動図書館「ぶっくん」の車庫の建設についてです。

今年度「ぶっくん」車庫の建設にかかる予算が、ようやく予算の計上をされました。現時点では車庫がないため、特に雨の降る日には本の積み下ろしの作業時に、本が濡れないようにとても苦労しているところですが、車庫の建設とともに、図書館の搬入搬出口から車庫を繋ぐ屋根を設置する予定としておりまして、非常に効率が向上するものと考えております。阿東図書館からの説明は以上でございます。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、どうもありがとうございました。

6館のご報告ということですが、これについて令和3年度これはもうすでに取り組みやってきたということですが、取り組みの予定とか何か皆様方からご質問があればよろしくをお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

小郡図書館友の会「鉢の子」からきました。田邊と申します。

先ほどの9ページの昨年度との実績の企画の部分の令和3年度の実績で、子ども読書活動推進事業の数字と行事開催回数、参加者数と一番下の図書館活用推進事業の数字が全く一緒な理由っていうか。なぜ一緒なのかがすごく不思議なのと、その下のアスタリスクの説明が2つある部分をみると個々の数値は違う定義じゃないかなというような気がしたのですが、その説明をお願いしたいなと思います。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

たくさん一気にされると分からなくなるので、いくつ質問がありますでしょうか。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

全部で言いたいことは、4つです。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

4つ。すみませんけど、一つずついきませんか。テンポよくいきましょう。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

はい。一つ目が子ども読書活動推進事業の数字と行事開催回数、行事参加者数と一番下の図書館活用推進事業の数字が一緒な理由が知りたいのと。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ちょっと待ってください。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

230と1万46が全く一緒の理由。

それと、一番下の米印のところに分けますみたいなことが書いてありますが、これはどういうことなのか。どういう分け方がされているのかが書かれているのに、どうして一緒の数字になるのかどうかを知りたいということです。

それと2点目が。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ちょっと待ってください。答えられなくなるので、申し訳ないけど1点ずついききたいと思います。他の方もまずはあるかもしれないので判断は後でお願いします。じゃあそれについて、事務局お願いします。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

すみません、これは数字がミスプリントになっていると思います。子ども読書活動に関する行事だけを拾っていかないといけないのが、おそらく図書館活用の事業をすべての事業を拾うようにしていて、分けなくてはいけないので、これはミスだと思います。ちょっとですね、また数字を拾いなおして、また、ご報告したいと思います。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

その下のアスタリスクも、もうちょっときちんと精査されてということですか。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

これは、分け方の説明をしていて、この分け方で分けているという、子どもに特化した行事だけを拾うようにしているのが、おそらく全部拾ったのがここにあげてしまっているというのが、ミスの原因かと思います。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

数字はもう一回精査されるということで、よろしくお願いします。

田邊委員さん、よくぞお気づきになりました。

他の方ももしあれば何かご質問ありますか。はい、中村委員お願いします。

○中村委員（山口市立中央図書館友の会「トネリコ」事務局）

トネリコの中村です。令和3年度、令和4年度も幅広い活動をしておられますが、この中の数値にはでていませんが、会計年度任用職員も含めた職員体制というのは変化があるのかなのかについて教えていただけたらと思います。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

職員は、昨年度と今年度全く人数が同数で行っております。以前ご説明をしたように、会計年度の制度が始まったときに、どうしても勤務時間を短くしていただく必要が生じたことから、その慢性的に少し人数が足りないという状況にはなったというご説明をしたところですが、予算の都合、いろいろなものがありまして、現状では、人はもちろん確保して昨年度から減ったということはもちろんないのですが、現状の体制で頑張っていきたいというように思っております。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

他には何かありますでしょうか。他にはよろしいでしょうか。

では、田邊委員さん、2つ目をお願いいたします。4ついけるかは分かりませんが、優先順位を高いほうからおっしゃってください。2つ目をお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

2つ目に知りたいことが、9ページの移動図書館管理運営業務の図書館の貸出冊数がすごく増えている理由があれば知りたいです。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

移動図書館の冊数については、中央が持っておりますこちらの仁保の貸出が1人当たりの貸出冊数が、急激に増えているのが実績として上がってしまっていて、この中の8万冊以上が中央で持っている「ぶっくん」での貸出になっております。

もちろん、日数は、昨年比べて20日間ほど増えているというのもあります。今までにない貸出冊数が増えてきているということもあって、例えばご来館をいただくよりも外で借りる「ぶっくん」の方を選ばれる方も増えてきつつあるかもしれないですし、そういうコロナ禍の影響も多少なりともあるのかなとは思っています。

まだはっきりとした分析はできていませんが、明らかに増えてきているという感覚が私共にはあります。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

目標値よりかなり多く2倍以上になっているところはあります。

今後、その辺も見続けてもらえれば何か理由が分かってくるかもしれませんね。

まだ時間がありますね。では、端的に3つ目をお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

はい、10ページの取り組みの中で、子ども読書活動の推進については、番号が書いてありますが、図書館活用推進事業というのは言葉に出てこないのですが、そういうこちらの何か9ページの何に対する取り組みなのかが分かるようにしてもらったほうが分かりやすい。

一体、どの事業のことを書いてあるのか子ども推進事業だけはよくわかるようになっていくと思うのですが、例えば一番下のそのさっき分からない数字の部分は、一体どれがそれにあたるのかが、取り組みの方の中で出てこないの、実際されているものがあるのだろうけど、どれに当てはまるかが分からない気がします。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

はい。主な事業だけを書き込みを各館からしているということもあってなかなかそのすべての事業をすべてこちらの計画に書き込んでいくような、今まではそういう手法をとっていないものですから、7つの事業の予算をもって、その予算に対する事業をそれぞれの館でも担っていただいでやっていたいでいるのですけど、なかなかすべてを合致させる書き方でというのは難しいのと、行事もこんなこといったらあれですが、いろいろな分野の行事、様々な子どもが対象であったり大人の方が対象であったり全ての方が対象であったりする事業、行事を組んだ後でこれは子どもが来たから、子どもの事業に練り込もうという、実績の割り振りをしていることもありますので、なかなかスパッとこう全部の事業を縦割りで分けていないということをご理解いただきたいなと思いますし、また全てを書く資料が重たくなりすぎるといってもあって主なものだけ書かせているというご理解をいただけたらと思います。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、では最後4つ目、短くお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

最後は悪い質問ではないです。説明の中で興味をもったことが2つあって東大寺サミット、すごくいいと思うので、全館みんなで協力できてやるとかそういうPRの方法を考えていくといいかなと徳地にぜひ行ってみたいと思うようなことを図書館同士でできたらいいじゃないかなと思ったのと、それと先ほども言われたように山口線が100周年で鉢の子は、維新ホールがとても気に入って下さって、また一緒に何かしましょうと言われているので、ぜひ、阿東図書館だけでなく、ほかの図書館ももし何か一緒にというのがあったらできたらいいのではないかなと思いました。以上です。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、すみません。ありがとうございます。

○山口委員（公募委員）

小郡図書館について質問ですが、これをみるとみんな鉢の子さんって書いてありますが、小郡図書館の独自の事業というのは、主催事業ではないですよ。おそらく鉢の子の主催事業ですよ。それがちょっと気になって他のところってみんな自分のところの主催事業ばかりしているのですけれど、小郡図書館については鉢の子さんのイベントばかりが載っていて、ここに載るべきなのかな。まあ協力、連携されているから載せられているのだと思うのですが、ちょっと気になって。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

よろしいですか。

○小郡図書館 杉山館長

鉢の子の事業がかなり多いのは確かでありますけれども、そういった鉢の子と書いてないものは、みんな小郡図書館の主催でやっているということになりますので例えば、おはなし会も当然そうですし、図書館はっけんツアーとか、そういったものも小郡図書館が主催でやっております。

地域交流センターとの連携イベントも、小郡図書館が中心となってやっているという形ですので、小郡図書館の主催事業もこの中にはいっているということです。

○中村委員（山口市立中央図書館友の会「トネリコ」事務局）

そうだったら、例えば、トネリコの行事は載っていないじゃないですか。ちょっと書き方のニュアンスが違うのかなというように思いました。ほかの全ての事業を把握していないのですけれども。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

書き方については、されたということは事実ですので、今後も各館がどういう書き方をするのかということで、かなり鉢の子さんは活動をされていますので、当然鉢の子さんだけではできないと思うので、図書館が主体的にやらないとできないとは思っております。そういう意味で書かれているのかなという解釈のもとであります。

それでは、お願いします。

○國弘委員（公募委員）

一覧表の中の中学生職場体験受け入れ中止というのがみえるのですが、これは今までどれくらいいて、それから中止した理由というか、そういうのはどうなっているだろうかと興味をもっています。秋穂図書館お願いします。

○秋穂図書館 小野館長

実は、コロナ禍というのもありましたが、秋穂中学校からご依頼がありまして、ぜひ、お受けしましょうということで実施の予定でいまして、実習の実施までに多少コロナの変動がありまして、中学校の方から中止の申し出があったということで中止になったということで、決まっていた生徒が大変残念がっていて、あと残暑見舞いに、とても残念でしたみたいな形で、図書館の方に見舞いハガキを送ってくださいまして、ぜひ図書館としても、今後、例えば春休みとか冬休みとか夏休みに図書館のおはなし会とか、そういうものに参加してもらえものなら参加してもらえないかという申し入れは個人レベルでしています。中学校とはまた別な形でちょっと協力体制をとっていきたいなと思っています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

受け入れを拒んだわけではなくて中学校側の都合によって中止になったということですね。

○秋穂図書館：小野

受け入れを拒んだということ、それは全然ないです。都合というか安全性ということだろう思っております。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

今年度は、それができるといいなと思っております。

まだまだ質問があるとは思いますがまだまだ先がありますので進めさせていただきます。

3つ目ですけど、第4次図書館サービス計画にかかる市民アンケート調査の結果についてということで、事務局からご報告をお願いいたします。

○中央図書館サービス担当：水師

はい、中央図書館サービス担当水師です。よろしく申し上げます。

集計結果、送付した資料と本日配布した調査結果（前回調査との比較）という、2つのものを使って説明していきたいと思います。

まずは、集計結果ですが、3月の協議会で回答が700ちょうどとお伝えしましたが、結局のところ、1件増えて701人から回答がありました、それで、回収率が34.8%となり、その回答者については、男女の比は男性が40.9%、女性が57.3%で、年齢別、累計が40代～50代が多くなっています。

職業別では、会社員が多く35.5%で、その次に多いのは、無職20.5%、地域別でいいますと小郡が13%で高く、人口も比率が多いでしょうから、大殿とか大内など、人口が多いところは多くなっています。

問5ですが、あなたが普段お使いの情報端末ということで、スマートフォンは、46.2%、パソコン26.1%、タブレット端末10.4%ということで、かなりの方がいずれかをお持ちという結果になっています。

問6ホームページを利用したことがありますか。知っているが利用したことがないというのが41.2%、あることを知らないというのが28.1%というので、かなり利用されたことない方が多くなっています。

問7利用したページがどれですかということで、カレンダーが36.6%、資料の検索が26.8%、あと、予約とお知らせと行事が14.1%ずつということで、すね、今、問5、6、7は、前回なくて今回だけの質問になります。

問8あなたが過去1年の間に、もっともよく利用した市立図書館はどれですかということで、前回調査との比較というのをあわせてもらって、上の方が前回5年前のアンケートの結果です。で下の方が今回、結果ということになります。

どれも利用したことがないが前回47.9%で今回、48.5%でかなり方々が利用したことがないということになっております。この利用なしの割合が高いということで、利用したことがないという方と、利用したことがあるという方について、それぞれみていくと、図5が男女別で青の方が利用あり、赤が利用なしということで男性の方が利用なしがちょっと多く、これは前回今回だいたい同じような傾向になっております。

年代別で見ると、10代の利用ありが、一番多く、30代、40代の利用ありが、多いですが、今回は20代の利用ありがだいぶ減っています。

次の図7が、職業別の集計で、大体これは前回とほぼ同じような傾向です。前回パート等が、ちょっと低いですね。

次に、居住地別にみていくと、大体図書館に近いところほど利用が多く、遠くに行くにしたがって利用が少なくなる傾向が見られます。

次が、問9で利用したことがないと答えた方にその理由を聞いた質問ですが、これも本等は購入する。情報はメディアで入手するというのが特に多く、必要性を感じない、行く時間がないというのがその次に多くなっています。

問10で図書館利用された方に質問で、その図書館をどれくらいの頻度で使ったかということで、年に1~数回というのが一番多く43.8%、月に数回というのが31.5%、で前回とほぼ同じような感じになっています。

問11に。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

えっと、すみません。まだ沢山あるようですけれども、全部おっしゃいますか。主だったところをお願いできればと思います。お願いします。

○中央図書館サービス担当：水師

問11には、資料の貸出というのが多くなっています。

問12からが満足度をきく質問で、いずれも開館時間、日数ほぼ普通以上の方が多くなっており、蔵書構成をみれば大体普通以上の方が多く、レファレンスサービ

スとか利用されたことがないから、今はわからないというのが多くなっているということになっています。

問13、14は、前回にはなく今回だけの質問でして、知っているかどうかという意味で、図書館のブックスタートが、知っている、利用されたことがある、両方に多くなっています。

問15は、今後図書館がコストをかけて重点的に進めるべきと考える機能・サービスは何ですかということで、大人のための環境提供が一番多く、次に、子どもための環境提供、蔵書充実というのがその次となっています。

ここで障がいがあっても不自由なく利用できる環境整備というのが、131人で結構、多くなっています。また、デジタル技術を活用した本を読む環境づくりに向けた取り組みというのが、75人と、次いで多くなっています。

この質問を利用ありとなしの方で分けて集計したものが図の23で、これは大体前回と同じような感じで、利用ありの方では、子どものための環境提供や蔵書充実というのが、利用なしの方では、環境提供、自習環境の提供というのが多くなっています。

問16の今後図書館が充実すべきと考える図書はどれですかということでは、趣味・教養書というのが一番多くて、小説などが208、実用書が179ということになっています。

これも利用ありとなしで分けて集計しており、利用ありで、趣味・教養書、小説、実用書の順で、利用なしで、趣味・教養書、小説、実用書という順で、同じような傾向になっております。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、ありがとうございました。それではアンケートをご覧になっていると思いますので、前回との比較ということで、パラパラとご覧になりまして、これもちょっと、時間が押していますので、すみませんけれども一人ひとつにしてくださいませ、これも簡潔にお願いします。

○國弘委員（公募委員）

前回と今回を比較しているのはよくわかって、傾向らしいものもよく分かりましたが、これ同じ人で前回と今回とも比べるのであれば、価値があって前回も今回も違う人で比べると、その移り変わりは見えないのかなって気がしたのですが、わざわざこんなに作ってもらって申し訳ないですが、それはいかがですか。

○中央図書館 村中副館長

私、数字は苦手ですが統計の取り方として、前回、水師の方から説明したときに、山口市の人口規模で2,300くらいであれば、無作為抽出で概ね全体的な傾向がつかめるという、統計学上の数字があるようでして、それに基づいてやっておりますので、大まかな山口市民の傾向というのは、分かってくるのかなという形で考えております。

概ね今の説明をまとめると、統計の傾向が変わってなくて、新たにお伝えして、

今後、計画の中で考えていかななくてはならないところは、携帯電話が減って、スマートフォンが特に利用率が上がっていくという、そういったところを踏まえて、そういうデジタル技術やスマートフォンによる、手続きの簡素化、便利さと言いますか、そういったところを盛り込んでいく事業をこれから計画にいていくべきのかなと、統計の結果としては考えております。

また、障がいなどへの対応にしても、この統計の結果としては、期待、望むところがあると思いますので、そういったところについても、皆さんの意見を、次回、骨子や案をつくり、お見せするときに、ご意見を伺いながらそういったのも盛り込んでいくべきと考えております。

統計のところは、こういうとり方で統計学ですので、ご理解をいただければと考えております。以上でございます。

○中村委員（山口市立中央図書館友の会「トネリコ」事務局）

中村です。今日いただいた資料の19ページのところで、問16に関して、今回、図書館が充実すべきと考える資料はどれですかということですが、前回も今回も利用がない、赤色の方ですね、利用がない方から地域資料から大活字本、デジタル資料へ対する要求というのが利用のある方よりも多いと思いますが、ということは前回のアンケートがあんまり活かされていないのかなという、ここで利用がない方からこういう資料があればよいという意見が出て、それが直に反映するわけではないと思いますが、今回も同様に利用がある方に比べて、ない方から例えばデジタル資料だとか、バリアフリーとか、利用が求められているというところには、力を入れていただけたらなと思いました。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

これは、次の計画を立てるときのそのためにアンケートをしたわけですから、それに反映していくためだというふうに理解はしていくということですね。

今、ご指摘いただいた、私もそう思っていて、バリアフリー、時代が5年くらい前ですかね、その時とまたちょっと違っていると、法律もできたしということもあるので、きちんとサービス計画におとしていただければと思います。

他に何か。はい、お願いします。一点でお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

はい、17ページをみると前回も今回も大人のための環境提供がとても高く、大人の方の居場所みたいなものがほしいのではないかなというのがありました。

徳山の図書館は駅に直結していて、カフェもついていてゆっくりできるという話をよく聞きます。そういうものを今後も検討課題にすることと、その下の自習環境提供というのは、使ったことがない人がほしいうて今回言われているようですが、コロナの影響かなと思いますが、やっぱり学生とか勉強する場所が欲しいのではないかなというのは、とても感じました。

そういうのも次の計画の中にぜひ、何か盛り込んでいただけたらいいかなと、せっかくアンケートをとったので、反映していただきたいなと思います。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

その学習室については、先生がいろいろと勉強されていると思いますけど、それがどう考えるかというのは図書館のスタンスがあると思います。

勉強する部屋を用意するのか、図書館の資料を利用する部屋を用意するのかというのは、今、考え時かなと思います。

これがこうだからすぐにサービス計画に落とし込むというのは、ちょっと難しいところもあるのかもしれませんが、それは、図書館にご判断はお願いしたいと思います。

他に何かありませんでしょうか。はい、ではお名前をお願いします。

○坂田委員（阿知須図書館おはなしボランティア「おはなしキラキラ」所属）

新しい方での問8の居住地別クロス集計8ですが、新しい方だと4ページです。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

今日配布されたものの4ページですね。

○坂田委員（阿知須図書館おはなしボランティア「おはなしキラキラ」所属）

すごく地域差に驚いたのですが、前回配布されたものも、今回のでも、前回と今回を比較して違う方ではあるけど、やっぱりある地域は16%も利用していない方がいらっしゃいますが、佐山地区だったら40%くらい増えていて、これは佐山地区、阿知須、利用してくださいと、地域を呼びかけられたのか、すごく減っているところはアクセスが悪いのだろうなど、移動手段がなくて困っていらっしゃる。

利用したくてもできない方が多い地域ということで、このことに対して、やっぱり同じ市民税がかかっていますから、そういうサービスを充実するためには、どうしたらいいのだろうと、移動の手段とか、あるいはネット検索・予約についての周知とか、受け取り場所がまた遠いので、受け取り場所を補充していくとか、地域交流センターでそういう検索の仕方を家庭でもできますよと受け取る場所をどうすればいいんだろうというのは、他にも範囲が広い地域とか、交通手段がここは不便な場所だなどというのがどうしても利用なしの方が多いのかなと思ったのでその辺について、また検討いただけたらと思います。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

旧山口市内の地域交流センターでは配本受け取りをできます。まだ、ただその周知がずっと長年やってきていますが、まだご存じでない方もいらっしゃるかもしれませんし、そこは気を付けて取り組んでいく必要があるかと思っています。

また、非常に、旧町の部分の数字も伸びてきているところもありますし、随分と周知が進んできているのかなというような期待感を、今、持っている数字を見させていただいております。また、分析しながら取り組みを決めていきたいと思いません。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ありがとうございます。これをパッとみますと秋穂二島がすごい。

○中央図書館 松富館長

初めにお配りしております3ページに回答数があると思います。例えば、陶は、9人、二島は、5人いくかいかないで、すごく差が出ると思う。全体の傾向という感じで、まだまだ見ていく回答者によって内容が変わってくるという傾向がでております。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ちょっと母数が違いましたので。

○中央図書館 村中副館長

市内全体で傾向には同じような傾向が統計学でとれますが、個数が少ない地域に分けてしまうと齟齬がでてきます。

○中央図書館 松富館長

今、言ったように各地域で、ご存じない方がいるのであれば、そういった周知に力をいれていくということも必要と考えています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

ちょっと数字のマジックというか。

はい、ありがとうございます。

まだまだあると思うのですが、また何かご意見を申し上げる機会を設けていただければとは思っております。

進めます。まだありますので。

それでは、次に子どもワイワイ図書館実施報告ということでお願いいたします。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

それでは私の方から、ご報告をさせていただきます。

資料の11ページ裏側をご覧ください。今年度、実施をさせていただきました。この最初のレジメがついている、最初の11ページをご覧くださいと思います。

先日行いましたワイワイ図書館のご報告です。

4月30日の土曜日に各館、同時開催で行ったものでございます。当日につきましては、非常にお天気が良くて、各館多数の子どもさん方親子連れのご来館をいただきました。

こちらの出席の方はですね、その当日の入館者数と、それから様々各館で行いました行事への参加者数を集計した数字です。

今、ざっと見積もりまして入館者数が4,116人、それから行事への参加の方にも2,044人ということで、当日は合わせて、もちろん、複数ダブルカウント、トリプルカウントしておりますけど、6,160人という形で実績が上がってきております。昨年度に比べても増えてきておりますので、しっかりと各館の取り組みの成果がでていくというふうに思っております。以上でございます。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

はい、ありがとうございます。これについてご質問はよろしいでしょうかね。あとでDVDを見るということで、各館長さんもコメントを出していらっしゃるのでは

しょうか。それを楽しみにしながらということで、どうしても聞きたいという方があればお願いをしますけど、よろしいでしょうか。

全体を通して、または、日頃思っていること、何かあれば一人ひとつにさせていただければと思います。

まず、ご発言されてない方を中心にぜひともご発言いただければと思います。

山本委員どうでしょうか。

○山本委員（語りのグループ「おいしいおかゆの会」会員）

徳地の場合、範囲が広いということと高齢化率が高いということで、図書館に近くても行けない。じゃあどうすればいいか。

こっち側がそちらの方に行ってあげるというサービスを考えていくのも良いのではないかなと思っています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

原田委員さん、よろしいですか。

○原田委員（図書館と友だちの会・秋穂代表）

はい、よろしいです。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

総合支所が近くにできるとおっしゃっていて、また賑わいもできてくるという学校も近いですので、ますます賑わうのではないかなと思っています。

発言された方でも結構ですので、なんでも、質問でも結構です。建設的なご意見とか、希望それぞれの図書館ご利用になられて、そういうことの質問でもご意見でも結構です。ただし一問ずつにしてくださいませ。

○中村委員（山口市立中央図書館友の会「トネリコ」事務局）尾崎

今年度はうちの図書館に関しては19年目、来年度が20年目になると思うので、今年度から20周年に向けて、どういう取り組みになさるかというのは、考えていく必要があるかと思っていますので、また何かあればこれ以後もバックアップしていきたいと思っています。

いろいろと一緒に考えていけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

他の図書館も周年というのがありますよね、それぞれ全部覚えてないですけど。

○中央図書館 松富館長

来年うちが20ですね。小郡が15です。もうひとつ、県の図書館が来年50年ということで監査の時に副館長さんが来られて話をする中で、一緒にコラボ企画やれるといいねという話がちょっとあったので、そうですねと。

私たちも来年20周年なので、そういった予算要求を考えていきたいと思っています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

県立図書館で運営協議会というのがありますから、何か聞いてみたいかなと思っています。機会があればコラボというのは、とても大切かと思っています。

ただ、他の図書館も15周年来年ですか。他のところも何年というようなところがあれば、予算と先ほどは鉢の子さんが聞いておられますと、他のところから、かなり助成金を集めているとお聞きしております、それはそれとして、だけでも図書館自身もやっぱり予算がないといけないなと思っておりますので、いい機会かなと思っております。何周年というところで予算の確保をお願いします。

隣のYCAMが、イベントで予算要求されていて、図書館のことは気付かなかったですけども、イベントも大事にして、素晴らしいと、そういうことも考えれば、20周年はきちっと予算化していくことは、とても大切だし、15周年をやるかやらないかとか、いろんなことあると思いますが、他のところもきちっとお話し合いになられて他のところも7~8年とか10年とかそのうち経ってくるかとは思っています。周年の時はぜひともよろしくをお願いします。

○田邊委員（小郡図書館友の会「鉢の子」会員）

鉢の子からの質問ですが、まちじゅう図書館というのも効果の測り方というか、どういう成果がでているかどうかされているのでしょうか。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

まちじゅう図書館につきましては、はっきりと目に見えた効果を活かすというのは、非常に難しい部分があるかと思いますが、もちろん業者さんに対するアンケートの調査をさせていただくなかで、うちの図書館の本をみている頻度のところを先ほど、15店舗で月に2,000人くらい見ているという、そして日本一本を読むまちづくりでの事業として捉われていますので、それはいつでもどこでも本が読めるというところを目標に掲げている部分もあります。

図書館に来てもらって図書館の本を借りてもらうのが、私たち本当が一番嬉しいですけど、それだけではなくて、市民の方々にいろいろな本を手にとってもらい本読んでもらう、そのための事業として捉われているので、はっきりとして効果が、これをやったから何人増えましたという効果の図り方はしておりませんが、図書館の利用しやすさと今まで知らなかった人に図書館の本がこんなに素敵な本があるということを知っていただくという意味でも活動を実施というふうに考えております。

○中央図書館 村中副館長

まちじゅう図書館は、図書館の本を置くことに加えて、イベントの方も毎年、業者さんに図書館で開催していただいているので、それで呼び込みという実際に来ていただくという効果もでています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

さっきアンケートとか評価とか言われたので私も気になっておりました。イベントの数とか、数だけじゃなくて、お店が15とおっしゃっていたのは、アンケートというかなんだらうというか、それはただの数に過ぎないことで、今おっしゃったことがまさしく私もそう思いました。

では、伸びたのは何が伸びているのですか、何のためにやっているのですか。や

っぱり検証しないとイケないですね。

サービス計画も今4年目、今年度は5年目とおっしゃったときには、じゃあ5年間、何をやってどうだったのですかというのは当然、でてくることかなというので今、すごく良いところだったなと私は思います。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

毎年ですね、事業者さん毎年一年限りで報告をさせていただきまして、そこで効果や取り組みの姿勢も含めて、それと地域のバランスも含めて毎年選定をしかえているというのが、実は実情でありまして、一度ご応募してずっとずっとやっただいてはいるわけではないです。

そこは、しっかりと図書館としてもお付き合いの仕方、それからどういうふうの本を扱っていくのかという部分、それと事業者さんの思いも含めてしっかりと検証していきたいと思っています。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

声を聴くとか、そういう様な。

○中央図書館 松富館長

今日お配りした調査結果の2ページを見てください。

その一番下の行、年代別クロス集計の20代、見てもらうと前は57くらいありましたが今は43ですか、20代の利用が全体的に少ないというそうした中で、街中でいくと、例えば、美容院とか喫茶店とか20代の方がよく行くところにターゲットを絞って、小説などはないですが本に携わってもらい、それなら図書館に行ってみようかというような動機付けを含めている。20代くらいを主にターゲットにした事業であるということですね。そこら辺をご理解いただきたい。傾向がでているかは分からないですけど。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

5年目ですので、ご報告は何かしらあるのではないかと思います。

他に何かありますか。はい、どうぞ。

○坂田委員（阿知須図書館おはなしボランティア「おはなしキラキラ」所属

坂田です。先ほどの話で「ぶっくん」は今、何か所くらい停めて周るのかなと学校が合併されて、学校か地域交流センターが多いなと思うのですが、すごく範囲が広いところですが、例えばもう少し中心になるような地域交流センターの近くとか阿東町さん、カフェもされるとおっしゃっていましたがけれども、「ぶっくん」は今、何か所くらい停まっているとか地域差があると思いますけれど、行きづらいところでしたら、行先を増やしていただけたらどうかと思います。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

今は、昨年度ですね一つほどステーションをルートの中で増やしましたので、今43か所をまわっています。

1か所あたり2週間に1回ずつ周っていて、先ほど、山本委員からもありましたように、なかなかおいでいただくことが難しいような地域を主に「ぶっくん」の車

で近くまで行かせていただいているのが現状でございます。

また、山口の地域交流センター市内であれば、受け取りもしていただけますが「ぶっくん」であれば、直に手に取ってもらえるということもあるので、この先は2台の体制で周らないといけないということと、本を積み替えやいろいろ貸し借り本の冊数それから職員数の関係もあってですね、なかなか今、43か所以上にするというのは難しい状況ではありますけど、どちらの場所であればどれだけきていただけるのか、例えば数が少なくてもその地域、遠い位置であればやはりお伺いする必要があると思っておりますので、バランスをみながらやっていきたいと思っております。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

小嶋先生は、何かございますか。

○小嶋委員（市教研学校図書館部会）

（発言なし）

○大野委員（元中学校校長、アマチュア映像作家）

それでは、私が、私、ワイワイ図書館のことについて映像を作りましたが、今資料をみますと入館者数とか参加者数とか、しっかりと、でております。この数字をDVDに収録すればよかったと反省しているのですが、私が館長さんのところを訪れたときに、この数字を出してもらえなかったもので、入れたいと思います。

○中央図書館 尾崎管理担当主幹

こちらが集計したタイミングがずれていたと思います。申し訳ございません。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）

他によろしいでしょうか。

最後に一言だけ、先ほどサービス計画の中に電子書籍、電子図書館をいれると、導入法の方法性かもしれないんですけど、検討かもしれないんですけど、やはり予算って大きな予算ですので、何かまだ今、コロナってということで、まだ、今だったら遠隔というものとか、そういうところで予算獲得ができるのではないかと、防府も今年度はじまるというふうに、最初はやらないみたいなことをおっしゃっていましたが、一気にはいるようです。県立もはいましたし、いろんなところでいれてきております。

是非はあると思います。電子書籍が本当にいいのかどうかと、ただ、これは遠隔、さっきのデジタル化とかデジタル資料というようなことを考えると、避けられないと思うので、サービス計画の中にはきちんといれて予算化をしてほしいというのが私の希望です。

はい、よろしいでしょうか。まだまだ言いたいことがあるかと思いますが、何かご意見があれば、先ほど6月2日までに議事録でしたね。それに合わせて、その頃までに、何かお気づきがあったり質問があったり、それぞれの会のところに戻って、さっきの鉢の子さんみたいにご質問等々あれば、直接聞くということで良いでしょうかね。さっきは議事録が6月2日ということでしたので、そのあたりまでに、も

し何かあれば質問するというので、よろしくお願いいたします。

事務局から何かありますか。

○中央図書館 村中副館長
事務局の方からはないですが、会を閉められるなら連絡事項があります。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）
それでは事務局にお返しします。

○中央図書館 村中副館長
それでは、連絡をさせていただきます。
最初は、会長の方からお話があったように、サービス計画の策定があります。
次回の開催を夏あたりに7月末か8月になろうかと思いますが、通常秋にしていますが、開催回数を増やして、策定のご審議をお願いすることになろうかと思しますので、よろしくお願いいたします。

日程につきましては、改めてご都合を聞きながら、申し訳ないですが、最大公約数のところで、調整をさせていただくようになろうかと思ひます。

6月2日までに議事録の修正の必要があればご連絡をいただくということもありますが、6月2日とは言わず、「こういうことがあったわ。」という気づきやご意見があれば、メールでもFAXでも結構ですから、事前に事務局にいただければ、会議で、より円滑に適切なご説明をさせていただきますので、いきなりこの会ということ、思いつかれることもあるかもしれませんが、特に、お送りした資料に関する事などについては、事前にいただければ、円滑なお伝えができるかと思ひますので、ご協力をお願いいたします。

それと、この後に、大野委員が撮影したワイワイ図書館のDVDを上映する予定でございますので、ここで一旦、会議は締めさせていただきます。

それでは、上映準備をいたしますので、その間に、必要な方におかれましては、水分補給やトイレなどをお済ましく下さい。

○安光会長（山口県立大学名誉教授）
それでは、会議は終了とします。

※ このあと、大野委員撮影制作のワイワイ図書館のDVD上映（約30分）



山口市立中央図書館
TEL 083-901-1040